

もし、美唄市の平成29年度予算を家計簿に置き換えたとしたら...

例えば、給料月収30万円の家庭に置き換えてみると、こうなります。



一般会計



収入の部

給料(市税、地方交付税など)	30万円(67%)
うち基本給(市税)	6万円(14%)
うち諸手当(地方交付税など)	24万円(53%)
親などからの援助(国・道からの補助金)	8万7,000円(20%)
貯金の取り崩し(繰入金)	4,000円(1%)
銀行などからの借金(市債)	3万4,000円(8%)
貸したお金の返済金(貸付金元利収入)	2万円(4%)

合計 44万5,000円

貯金残高(財政調整基金) 2万2,000円

支出の部

食費(人件費)	7万4,000円(17%)
光熱水費など(物件費など)	6万円(13%)
医療費(扶助費)	8万円(18%)
家族への仕送りなど(繰出金、扶助費)	10万3,000円(23%)
家や車の購入・改修(建設事業費など)	4万3,000円(10%)
銀行への借金返済(公債費)	6万円(14%)
友人などへ貸すお金(貸付金)	2万円(4%)
貯金(積立金)	5,000円(1%)

合計 44万5,000円

借金残高 48万8,000円

銀行に返済する額が6万円であるのに対し、銀行から借りる額は3万4,000円。前年度より借金残高が減り、残高は48万8,000円となりました。今後借金を減らすように努めます。(前年度借金残高 51万2,000円)



給料30万円のうち、基本給(皆さんから納めていただいた市税)は2割弱の6万円です。一方、手当の中でもっとも大きいのが地方交付税で、全体の7割近くを占めています。これは、会社の経営状況(国の財政状況)の影響を受け給料が大きく変動する可能性があり、収入が安定しにくいことを意味しており、毎年同じような状況になっています。

貯金の残高は2万2,000円。経費の削減などに努め貯金を増やしました(前年度貯金残高1万4,000円)。何か不測の事態が起こった時のため、今後も十分な金額の確保に努めます。

企業会計



うち副業への支援
家族へ仕送り
7万6,000円

特別会計



副業に対する支援(月額)

A 貸家(病院事業会計)	収入	3万7,000円
	支援額	1万2,000円
	支出額	5万円
収入+支援額の合計4万9,000円は、支出額より1,000円少なくなりますが、不足分は内部の貯金で補っています。		
B 貸家(水道・工業用水道事業会計)	収入	2万8,000円
	支援額	3,000円
	支出額	3万6,000円
収入+支援額の合計3万1,000円は、支出額より5,000円少なくなりますが、不足分は内部の貯金で補っています。		
合計	収入	6万5,000円
	支援額	1万5,000円
	支出額	8万6,000円

家計が別な家族(子ども夫婦宅)への仕送り(月額)

A 交通費(市民バス会計)	収入	1,000円
	仕送額	1,000円
	支出額	2,000円
B 食費・保険料(国民健康保険会計)	収入	10万3,000円
	仕送額	1万円
	支出額	11万3,000円
C 光熱水費(下水道会計)	収入	3万1,000円
	仕送額	2万1,000円
	支出額	5万2,000円
D 家賃(介護保険会計)	収入	6万6,000円
	仕送額	1万2,000円
	支出額	7万8,000円
E 医療費(後期高齢者医療会計)	収入	7,000円
	仕送額	1万6,000円
	支出額	2万3,000円
F 施設利用費(介護サービス事業会計)	収入	5,000円
	仕送額	1,000円
	支出額	6,000円
合計	収入	21万3,000円
	仕送額	6万1,000円
	支出額	27万4,000円



副業でアパート(企業会計)を運営していますが、健全な経営を行うため必要な支援を行っています。また、家計が別な子ども宅(特別会計)は食費・保険料や光熱水費が増え、家計が厳しく、仕送りを得ながら生活しています。